



駒澤会だより

第22号

2014年12月19日
駒澤大学駒澤会発行



大学に学ぶ幸い

駒澤大学総長・駒澤会名誉会長 池田 魯参

ご子女を駒澤大学で育て上げられてから後も、教育後援会（旧父兄会）のOBとして、なおも本学在校生に温かなご支援を頂き、さらには本学の教育環境の充実のために、種々ご高配を賜っております駒澤会の皆様には、諒に有難く心から感謝申し上げる次第です。

実に教育は人間形成の根幹であり、家や国の要です。平成26年ノーベル平和賞が、インド人のカイラシュ・サティアルティさんと、パキスタン人のマララ・ユスフザイさんのお二人に決定しましたが、多くの人々が賛嘆をもって迎えたのではないのでしょうか。パキスタン反政府武装勢力タリバンに襲われ、奇跡的に助かったマララさん（17才）は、世界に向け「全ての子供が学校へ行き、良い教育を受けることの大切さ」を訴え、「私は学びたかった。私は学び、将来の夢をかなえたかった」と率直な声を上げます。「いまだに5700万人もの子供たちが教育を受けられず、小学校すら通えない現状」といいます（10月11日・現在自宅がある英中部バーミンガムの図書館で、英語で行った受賞決定スピーチ）。ユネスコによると、パキスタンの成人識字率は男性70%、女性46%で、パキスタン政府の調査では、女子が学校教育を受けない理由は、親の反対が38%でトップということです。「女の子は（13、4才で）結婚して家を出ていく存在。稼ぎ手にならないのなら、教育にお金をかける必要はないと考える親が多い」（JICAの識字教育専門家・大橋知穂氏談。同日読売朝刊）からということです。

顧みて日本の学校教育はどうでしょうか。マララさんの受賞決定から一週間後の報道で小中の不登校生が12万人近くになり、6年ぶりに増加し低年齢化がみられるということ（10月17日朝7時NHKテレビニュース）で愕然としました。昨年9月「いじめ防止対策推進法」が施行されて一年経ち、13年度全体でいじめの認知件数がなんと18万5860件を数え、それでも最多だった前年度より1万2249件減少したのだといいます。なかでも小学生の暴力が1万896件と急増しています。パソコンや携帯電話を使ってのいじめが増加の原因といいます。充実しているはずの日本の教育の現場で、子供たちの心が折れ、衰弱しているのです。

こういう背景も影響してか、本学にあっても、せっかく大学に入ったのに学習意欲が湧かず不登校になってひきこもり、情緒不安定になって人間関係が築けなくて悩んでいる学生が少なからず見られます。

駒澤大学では一人の退学者も出まいと、教員と職員が総がかりで学生支援態勢に務めていますが、駒澤会の皆様方にも、最近の大学生事情を御理解頂き、さらなる御支援を賜りたくお願い申し上げます。

奨学金授与式について

総 額：500万円（一人20万円×25人）
目 的：学業奨励
対象学生：学部2年生以上

広報部部长 荒井 喜久子

昭和57年に、「駒澤大学駒澤会奨学金給付規程」が制定され、駒澤会奨学金が誕生し、現在は20万円×25人、年間500万円を給付しております。

平成26年7月に駒澤会奨学金授与式が廣瀬学長、森屋会長、田中副会長、三崎副会長が出席のもと行われました。

学長より、駒澤会へのお礼が述べられ、学生達への激励の言葉が述べられ、「この奨学金は、皆さんの将来において感謝として残ります。ますます勉学に精進して、将来の大きな糧として頑張っていたきたい」との言葉がありました。

また、森屋会長より駒澤会の紹介があり、学生達への祝辞が述べられ奨学金決定通知書が手渡されました。

授与された学生達も「感謝の心と将来役に立つよう努力し、頑張って参ります」と決意を述べておりました。

奨学金を受給された代表3人の決意と感謝の声を掲載し、駒澤会も応援を続けて行こうと約束しあいました。



受給生の言葉



経済学部経済学科

4年 平野 有希

この度は、駒澤会奨学生に選んでいただき誠にありがとうございます。昨年度の私の勉学の取り組みをこのような形で評価して頂きましたこと、大変光栄に思うと共にうれしく思っております。

私は大学生活において、視野を広く持ち、何事においても一生懸命取り組むことを心がけています。私は親元を離れ、一人暮らしをしているため、学業とアルバイトの両立にはとても苦労しました。しかし、苦労するからこそ得られるものがあり、より充実した大学生活を送ることができると私は感じています。そのため、特に学業においては手を抜かないよう努力しました。講義での疑問をそのままにするのではなく、図書館に足を運び調べたり、教授に質問に行くなど知識を身につける努力をしてきました。その結果、大学1～3年次まで毎年、学長学業奨励賞を受賞することができ、自分自身の大きな自信に繋がりました。また、ゼミナールではアメリカ経済論について学んでいます。ゼミナールの一環として、日本学生経済ゼミナール主催のプレゼン大会に参加することで、他大学の学生との交流を深め意見交換をしたり、教授から私たちの研究結果への意見やアドバイスをいただいたりと貴重な経験をすることができました。今後もこれまでの大学生活での経験を生かしながらも、現状に満足することなく精進してまいりたいと思います。

今回、駒澤会の奨学生として採用していただいたことに心から感謝しています。奨学生としての自覚を持ち、残りの大学生活に悔いを残さぬよう一日一日を大切に過ごしていきたいです。

受給生の言葉



文学部国文学科
3年 山地 未来

この度は、駒澤会奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございます。昨年度も採用して頂き、私の取り組みをこのような形で評価して頂いたことを大変光栄に思うとともに、感謝しております。

私が国文学科へ入ることを決めたのは高校生の時です。『源氏物語』「桐壺」巻を読んだ際「いづれの御時にか」から始まる、緊張感漂う重々しい語り魅了され、大学ではさらに古典文学の学びを深めたい、高校の先生が文学のおもしろさを教えてくださったように、次は私が生徒にその魅力を伝えたいと強く思いました。

入学当初は、授業についていけるか不安もありましたが、それ以上に自分の学びたい分野を専門的に研究することのできる喜びでいっぱいでした。授業を受ける度に、様々な知識を得ることができ、自分の世界が少しずつ広がっていくことを日々実感しています。

2年次では、念願の源氏物語ゼミに入り、現在も非常に充実した学びをすることができています。『源氏物語』の全体像を視野に入れた上で場面ごとの研究をし、さらに原文と向き合い、単語の単位でも調査を進めていくことで、作品の読みを深めることができるということこのゼミで学びました。王朝貴族の雅な世界を垣間見、その中で登場人物たちが抱える苦悩と向き合い、『源氏物語』を生涯にわたって味わいたいと考えています。

私は、大学卒業後の進路として、高等学校の国語科の教員を志望しています。生徒に国語を好きになってもらえるよう、その魅力を伝えるために、これからも講義の時間、それ以外の予習・復習の時間を大切にしていきたいです。また、自分の教育観を磨くため、教職研究会や学校ボランティアの活動をしています。こちらもより一層充実したものにするため努力していきます。

今回の採用を活力とし、今後も奨学生としての自覚を持ち、採用して頂いた感謝の気持ちを忘れずに、より一層勉学に励んでいきたいと思っております。

受給生の言葉



経済学部経済学科
2年 千羽 敏史

この度は、駒澤会奨励生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年の私の取り組みをこのような形で評価していただき、大変光栄に思います。

私は、この大学に入学する以前から心に誓っていることがあります。それは、どのような環境の中でも自分を見失わずに日々精進することです。他者と競い合うことも大切ではありますが、それ以上に自己の修練がどのような環境でも適応していくために必要であると考えます。

今回の成績を評価していただいたことは、様々な幸運に恵まれていたおかげだと感じ、深く感謝しております。様々な幸運の中でも素晴らしい先生方や家族の全面的なバックアップがあってこそのことだと思います。

己を見つめ、己に克つために日々過ごしていても、予期せぬことが起きて失敗することもあります。そのときはあるがまま受け止めて、ハプニングが起きなかった時に最良の結果を残すことができるように努力をしていこうと今回改めて再認識しました。

大学生活を駒澤大学内と自宅の往復で日々を過ごすより、様々な場所で視野を広げ、考え方を学び、学びの場を広げるためにこの駒澤会奨励金を有効に活用していきたいです。東京という世界でも有数の大学密集地帯にいることを利用し、他大学で行われている講演会に行き、他大学の先生方や学生と接する機会をこれからも積極的に得られるように活動していきます。自分で考え、行動することがこの駒澤大学の大学生活の中において不可欠だと思います。疑問を持ったら、どの手段が最も効率的で効果的であるかを考え、行動し、そして、試行錯誤し、次に活かせるものを得るという地道な作業を怠ることのないように短い大学生活を有意義に活用していこうと考えております。また、私は自分のすべきこと・したいことに関しては妥協することなく、日々精進していきたいです。その結果として、また駒澤会奨励生に選ばれることができれば幸いです。

教育後援会との懇親会報告



駒澤会
監査 赤堀 菊絵

夏の酷暑の中、毎年この時期に開催される教育後援会と駒澤会の懇親会が新橋の新橋亭で行なわれました。

森屋会長あいさつ、駒澤会の歩み、学生への奨学金支援。

会員増強の為に皆一丸となって活動、努力を続けています。

今回も教育後援会から堀会長、副会長、役員の方が出席。

駒澤会の活動等、色々と積極的に質問されて、会話もはずみ、親睦会すごい盛り上がりでした。

新橋亭のフカヒレ、皆さん一応に美味しいと好評でした。

教育後援会の皆様との懇親会も、回を重ねる毎に浸透し、声かけに賛同して戴き、駒澤会に入会してくださる方が少しずつではありますが、増えている状況です。

堀会長他、教育後援会の皆様の暖かい御理解御協力に心より感謝申し上げます。

大学は元より駒澤会は、教育後援会、同窓会の皆様と共に共存・共栄でありたいと願っております。

皆様が末永く支援・活動出来るところが駒澤会の魅力です。



教育後援会
副会長 蛭田 博幸

今年の猛暑も一休みとなった8月26日、駒澤会と駒澤大学教育後援会との懇親会が新橋にある駒澤大学高校卒業生のお店でもある『新橋亭(しんきょうてい)』で行われました。

駒澤会からは森屋会長を始め役員の皆様から12名、教育後援会からは5名参加し、共に駒澤大学学生を応援する会として懇親を深めさせていただき、エネルギーでパワーあふれる駒澤会の皆様と充実した時間を過ごす事ができました。

教育後援会としての活動を終えられた後も、駒澤大学学生を支援したいというその強い思いと行動力にあらためて敬服いたしました。現役学生の保護者として、心より感謝申し上げたいと思います。

駒澤大学に通われる学生が、心身ともに良好な状態で、有意義な学生生活を過ごせるよう、教育後援会と駒澤会との更なる緊密な連携を図り、充実した支援を行っていければと存じます。

これからの皆様のご多幸と駒澤会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。





「秋の研修会」紀行

厚生部副部長 滝沢 憲示

平成26年10月4日(土)～5日(日)に行われた駒澤会秋の研修会に参加しましたので、ご報告させていただきます。研修会場は箱根中強羅の「ラフォーレ倶楽部湯の棲」です。直接研修会場に行かれる人もいましたが、私は他の参加者10人と新宿駅に集合して10月4日(土)～5日(日)にわたって箱根を散策してきました。

行程

10月4日(土)

新宿駅 → 箱根湯本駅 → 強羅駅 → 公園上駅 →
(特急ロマンスカー) (箱根登山鉄道) (ケーブルカー) (徒歩)

強羅公園 → 公園下駅 → 中強羅駅 → ラフォーレ倶楽部湯の棲(研修及び宿泊)
(徒歩) (ケーブルカー) (徒歩)

10月5日(日)

ラフォーレ倶楽部湯の棲 → 早雲山 → 桃源台 → 元箱根 →
(送迎車) (ロープウェイ) (海賊船) (タクシー)

箱根神社 → さくら本陣【昼食】 → 元箱根 → 箱根湯本駅 → 新宿駅
(徒歩) (送迎車) (バス) (特急ロマンスカー)

◎感想

研修会で廣瀬学長先生が沢山の資料を持って来られ、熱心に講義してくださった事に感動しました。



活躍する学生紹介 林田翔太さん

I 部：林田選手にインタビュー（駒澤大学会館 246 にて）

今回は平成 26 年 9 月 19 日～10 月 4 日、韓国・仁川で行われた第 17 回アジア競技大会においてボクシングフライ級として銅メダルを獲得した林田翔太選手（商学科 4 年）のインタビューをボクシング部の大先輩であり、駒澤会会員の村野常夫氏にご同席を頂きながら行わせていただきました。（インタビュー）



（インタビュー） まず、ご出身はどちらでしょうか。

（林田翔太選手） 千葉県のパ安市です。

（インタビュー） どういうきっかけでボクシングを始められたのでしょうか。

（林田翔太選手） きっかけは兄が始めたのが影響しています。

（インタビュー） ではお兄さまは何がきっかけで始められたのでしょうか。

（林田翔太選手） 強くなりたいというのがあったようです。

わたしはそれに引きずられた感があります。

中学は習志野中学校で陸上部でした。

陸上部を引退した中学 3 年生の土日などに兄の通う習志野高校ボクシング部に連れられて行き、そこでボクシングを始めていました。

（インタビュー） 今の体重と身長はどの位あるのですか。

（林田翔太選手） 現在は体重 53 kg 身長は 172 cm です

（インタビュー） 若いから普通に食べると直に増えるでしょう。

（林田翔太選手） いえ、それがわたしはなかなか増えない体質で…。

（インタビュー） ボクシングを続けてきて一番辛かったのは何でしたか。

（林田翔太選手） う～ん、負けたらどうなるかという試合前の緊張感でしょうか。

怖いですね。

ただやる以上は勝つことを信じてやります。



(インタビュー) アジア大会での食事などのご苦労は如何だったでしょうか。

(林田翔太選手) 日本選手にはインスタント食が支給されました。

支給食の中に、チンゴ飯やみそ汁なども入っていましたが、あまり美味しくありませんでした。

日本サポートセンターというところが設置されていてこちらの食事は美味しくて助けられました。

(インタビュー) アジア大会もたいへん大きな大会と思います。

こういう大会ではよく魔物が住んでいるといわれますが、ご自身はどういうふうに感じられますか

また魔物を実感することがございましたか。

(林田翔太選手) わたしはアジア大会に臨みメダルを取る程の自信を持ち合わせていなかったもので、あまり感じませんでした。期待されたわたしのボクシングメイトなどが目の前で1回戦負けしたりするので、さすがにプレッシャーを感じました。

(インタビュー) そういう試合を目の当たりにして、自分の気持ちはどのようなものでしたか。

(林田翔太選手) 今度の試合は林田選手が勝てる選手ではない。そう云われて余計に奮起したりもしました。強い人が必ず勝てるかという、大きな大会になると解らないですね。そういう意味で魔物が住んでいるというのは当たっているかもしれませんね。

(インタビュー) 俊敏な動きをされておられるので目はよろしいのでしょうか。

(林田翔太選手) いえ、目はあまりよくありません。

(インタビュー) コンタクトですか？

(林田翔太選手) はい、ボクサーは1/10秒で打たれるか、かわすかの世界ですから、感覚的なもので闘っている部分があります。

(インタビュー) 顔に傷を負った人を見ることがありますが、ご自身もそのような目にあったことがありますか。

(林田翔太選手) あります。今回の大会からヘッドギアの装着が無くなりましたので。

(インタビュー) お顔が小さいのですが、まさか打たれて小さくなった訳ではないでしょう。(笑)

(林田翔太選手) いえ、叩かれて顔が小さく整形されたところはあるかもしれません(笑)

(インタビュー) もし、普通の若者に戻ったら…何をしていますか。

(林田翔太選手) 楽しいサークルに入って学生生活を満喫していると思います。

(インタビュー) お父さまは何かボクシング関係のお仕事ですか。

(林田翔太選手) いいえ、全く関係ありません。普通のサラリーマンでした。

私自身、小さな頃から足が速いとか、特に身体的にずば抜けた能力はありませんでした。

(インタビュー) お母さまはボクシングに対してどのようにお考えですか。

反対されていらっしやるのでしょうか。

(林田翔太選手) 最初、兄が始めるときは反対していましたが、今はもうはまっています。

試合会場に行きますと父母はもちろん祖父母まで応援に来てくれています。

(インタビュー) 周囲の方で感謝している方は…。

(林田翔太選手) わたしがアジア大会の出場が決まった時、規則で寮を出なければいけませんでしたが、他の大学の監督はあんまり練習にも来られないことが多いと聞く中で、小山田監督はまだ子供さんが小さいというのに仕事が終えられた後も毎日毎日、わたしの実家のある千葉まで来て頂き練習のご指導をいただいたことには本当に感謝しております。

(インタビュー) 今後の進路について、清水聡先輩（ロンドンオリンピック銅メダリスト）のように自衛隊に行かれるというようなことはあるのですか。

(林田翔太選手) 和歌山県庁にお世話になる予定です。

(インタビュー) お兄さまの方は如何ですか。

(林田翔太選手) 筑波大学で体育の先生を目指して頑張っています。



2014年9月27日
仁川アジア競技大会（韓国）にて

(インタビュー) 高校から始めてそのころから強かったですか。

(林田翔太選手) いえ、駒澤大学への推薦を貰えないレベルでした。全国大会で一回戦負けでしたね。

(村野先輩から) 逸話があって、高校二年の時、世界チャンピオンになっている井上尚弥と宇都宮で試合をして、1ラウンドを取りました。最終結果は残念な結果になったけど、あれほどの天才ボクサーと彼は渡り合ったのです。素質は確かにありました。

(インタビュー) 良かったですね。村野さんに素質を見出して貰えて。清水聡先輩も村野さんに見出して貰えたと同ったことがあります。

(村野先輩から) 林田のお兄ちゃんはファイター、弟の翔太選手はロングボクサーで全然タイプが違うのですね。兄弟で国体に出たことがあるのですが、結果は違う階級で兄弟揃っての優勝でした。

(インタビュー) 6年後の東京オリンピックにかける思いは如何ですか。

(林田翔太選手) 28歳になっていますが、まだまだ現役です。

その前にリオのオリンピックがありますので、今は目の前の大会を目指して頑張るだけです。

(村野先輩から) 和歌山県では指導者を求められています。彼が和歌山に行けばいい感じになるのではないのでしょうか。オリンピックの方は、わたしとしてはまずリオに行って貰いたい。彼にとってとても狙い目だと思います。



2014年11月22日
全日本ボクシング選手権大会（和歌山県）にて



インタビュー所感

スラリとしたイケメンの林田選手は、最後まで謙虚に礼儀正しく、われわれのインタビューに答えてくれたこと、周囲への感謝を何度も語っていたことがとても印象的でした。

幼稚園の頃、おもちゃ屋さんになりたかったという平凡な男の子の夢は、たまたま始めたボクシングから、今や途方もないアジア屈指のアマチュアボクサーになってしまいました。

これからも一層強い選手になると思いますが、どうか強くなっても、今日の優しさと礼儀正しさを併せ持つボクサーであって欲しいと願って止みません。

Ⅱ部：ご両親にインタビュー（駒澤大学ボクシング部祝賀会にて）

※2014年12月7日に駒澤大学深沢キャンパス洋館において、駒澤大学ボクシング部祝賀会が開催されました。当日は林田選手のご両親も参加されており、駒澤会からご両親にインタビューをさせていただきました。



表彰される3選手

左) 田中亮明選手 中央) 林田翔太選手 右) 清水聡選手
【国民体育大会：四連覇】 【アジア競技大会：銅メダル】 【アジア競技大会：銅メダル】

(インタビュー) 今日はおめでとうございます。【アジア競技大会：銅メダル】

(お父さま) ありがとうございます。このような盛大な会を催して頂き感無量でございます。

(インタビュー) 以前、林田選手にインタビューした時、父はボクシングとは全く関係がなく、また運動一家ではなかったという言葉が印象的でした。そういう中、ご両親としてはお二人のご兄弟がボクシングを始めたことについて、さぞご心配だったと思うのですが如何でしょうか。

(お母さま) 兄の太郎には中学の時に野球をやらせていました。街中のボクシングジムに隠れて行っているのが分かり、非常にショックでした。頭部への影響を心配したり、辞めさせたいと思いましたが、太郎が『野球は自分のミスでなくても負ければ終わってしまうけれど、ボクシングは勝っても負けても自分の力だから納得できる。僕はそんなスポーツをやって行きたいんだよ』と云われ、「もうなるようになれ」というような気持ちでずーと見守ってきました。

弟の翔太の方は中学で陸上とサッカーをやっており、既に棒高跳びで良い成績を残していましたが、高校進学と同時に、兄と一緒にやりたいと言い出してボクシングを始めてしまいました。この頃、兄弟はいつも緊張状態でこのまま大人になってやって行けるのだろうか心配していました。

(インタビュー) 翔太選手がボクシングに目覚めていくのは高校生の時からですか。

(お母さま) そうですね。今は亡きわたしの父が、ボクシングが大好きで有名なお祖父ちゃん

だったのです。熱心に応援に来るお祖父ちゃん『お祖父ちゃん今日も応援に来ているよ』とか云われていた記憶があります。沖縄のインターハイにも駆けつけてくれたのですが、その時は1回戦負けしてしまい、たいへん残念な結果に終わらせてしまいました。

(インタビュー) お父さまは自慢の息子さんですから職場などでは、やはり自慢してしまいますよね。
(お父さま) はい、知らぬ間にしてしまいます。周囲の雰囲気からこれはいけないと思い、控えるようにしています。

(インタビュー) 翔太選手から途中で辞めたいな…という弱音を聞いたことがありますか。

(お母さま) あります。期待されれば期待されるほどいい結果が出ない子で、惨敗が続いたりしました。

『太郎と違うのかな、辞めたいな…』そういう言葉をよく聞きました。

「そういう時があったから今があるんじゃない、翔は翔、太郎は太郎」

そういう言葉をかけた記憶があります。

(インタビュー) 以前のインタビューでも『母の言葉に勇気づけられて自分がある』と話されていました。

(お母さま) それよりも、あの子は兄の太郎が可愛がってくれまして、今があるように思います。

(インタビュー) さて、東京オリンピックまであと6年ですが、これを支えるお父さまお母さまにとっても健康が大切だと思います。先日は和歌山まで応援に行かれたのですね。

(お母さま) 普段あまり夫婦で出かけないのですが、子供のおかげでこのような外出機会をもてることに感謝しております。

(インタビュー) 今回のお母さまのお話のように、最初は緊張状況にあったご兄弟が、ボクシングを通じて次第に打ち解け、ボクシングのみならず、多方面に次第に団結していった過程を翔太君もお話になられていました。

今後も林田選手はもちろん、駒澤大学ボクシング部を応援して参ります。今日はほんとうによいお話をお聞かせ頂きありがとうございました。



マイクに向かう兄の太郎氏、翔太選手を挟んでご両親

編集後記

相談役 高見 静子

駒澤会だよりも発行してから10年余りになりました。

駒澤大学教授の皆様と宗門の皆様の深い愛情の元創立した駒澤会、会員の方は日本全国にいらして、総会への御出席もなかなかかなわない会員の皆様に、そして活躍している会員の方にも、駒澤会は「今こんな活動をしています」と発信して会の活動をますます盛り上げましょうと、当時文化部の皆様と事務局の指さんの協力を得て、駒澤会だよりは創刊されました。当時のメンバーの顔を思い、もう10年以上も過ぎた事が信じられない気持ちになり、またあれから今日まで発刊に協力してくださった方々に感謝し、同時にこれからも会の発展と、駒澤会だよりが長く続くよう祈らずにはられません。

私の駒澤大学仏教学部聴講生生活も12年が経ちました。新しい学びはわくわくして楽しく、坐禅をはじめ仏教の教えで今の生きようを学べることを知る大変貴重な時間を得られた幸せをかみしめております。駒澤大学にご縁をいただいたことに感謝し、駒澤会で楽しく皆様と共にこれからも会の発展に貢献できたらと念じます。

基金管理委員会からのお知らせ

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～11月までの利金	備考
三菱UFJモルガンスタンレー証券	336,898円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	19,759円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	13,684円	定期・普通預金利息
合計	370,341円	

基金管理委員長

事務局からのお知らせ

大学行事予定

12月23日～1月7日
冬期休業（全学休業）
2月4日～8日 2月一般入学試験
3月7日 3月一般入学試験
3月25日 卒業式（会長出席）

駒澤会行事予定

1月24日 役員会
2月15日 駒澤会新年賀詞交歓会
※多数のご参加をお待ちしております
3月14日 役員会

駒澤会だより 第22号

発行日：平成26年12月19日
発行者：駒澤大学駒澤会 広報部
154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1
TEL：(03)3418-9189
FAX：(03)3418-9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HP内>

<http://www.komazawa-u.ac.jp>
→ 在校生父母の方をクリック
→ 駒澤会をクリック

駒澤大学
駒澤会

